

令和7年度
新潟県原子力防災訓練

実施結果報告書

令和8(2026)年3月

柏崎市 危機管理部 防災・原子力課

目次

1	概要	1
2	実施時期及び訓練内容	1
3	参加機関	1
4	参加者人数	2
5	【個別訓練】夜間航空機避難訓練、原子力防災講座等	3
(1)	目的	3
(2)	実施日時及び概要	3
(3)	参加機関	3
(4)	訓練想定及び実施内容	3
(5)	参加者数	3
(6)	参加者の主な意見・感想	3
(7)	訓練で見えた課題と対策	4
(8)	訓練の様子	5
6	【個別訓練】学校等における児童の保護者への引渡し訓練	6
(1)	目的	6
(2)	実施日時及び参加人数	6
(3)	訓練内容	6
(4)	学校等からの主な意見等	6
(5)	訓練で見えた課題と対策	7
(6)	訓練の様子	7
7	【総合訓練】本部運営訓練及び住民避難訓練等	8
(1)	目的	8
(2)	参加機関	8
(3)	参加者数	8
(4)	訓練想定	8
(5)	訓練項目及び日程	9
(6)	訓練スケジュール	9
(7)	訓練内容	11
(8)	訓練参加者等の主な感想・意見	14
(9)	訓練で見えた課題と対策	16
(10)	訓練の様子	18

1 概要

原子力災害を想定した個別訓練及び総合訓練を新潟県と一体となって実施した。

2 実施時期及び訓練内容

(1) 個別訓練

実施時期	訓練内容
令和7(2025)年 8月30日(土)～31日(日)	・ 夜間航空機避難訓練 ・ 原子力防災講座等
令和7(2025)年 7月10日(木)、9月11日(木)、12日(金)、19日(金)、 10月10日(金)、16日(木)、17日(金)、28日(火)、 11月7日(金)	・ 学校等における児童の保護者への引渡し訓練 PAZ：松浜中学校、荒浜小学校、とうぶ保育園 UPZ：第三中学校、南中学校、比角小学校、北鯖石小学校、枇杷島小学校、柏崎保育園、北条保育園 ※各学校等における実施日は8ページに記載。

(2) 総合訓練

実施時期	訓練内容
令和7(2025)年 10月23日(木)	・ 柏崎市災害対策本部運営訓練 ・ オフサイトセンター運営訓練 ・ 緊急時通信連絡訓練
令和7(2025)年 11月9日(日)	・ 放射線防護対策施設の屋内退避訓練(特別養護老人ホームにしかりの里) ・ 施設敷地緊急事態要避難者の広域避難訓練(同上) ・ PAZ内住民のバス避難訓練(南部地区) ・ UPZ内住民の屋内退避訓練(UPZ全住民) ・ UPZ内住民の屋内退避対応訓練(北鯖石地区) ・ UPZ内住民のバスによる一時移転訓練(上条、中鯖石、南鯖石地区) ・ 安定ヨウ素剤緊急配布訓練 ・ 広報活動訓練

3 参加機関

新潟県、柏崎市、内閣府、原子力規制庁、県内市町村、自衛隊、第九管区海上保安本部、北陸地方整備局、北陸信越運輸局、新潟地方气象台、柏崎市消防本部、柏崎市消防団、東京電力ホールディングス株式会社 ほか

4 参加者人数

【個別訓練】8月30日(土)～31日(日) 夜間航空機避難訓練

	住民	市職員	合計 (延べ人数)
夜間航空機避難訓練	12	12	24
原子力防災講座等	12	5	17
合計	24	17	41

【個別訓練】学校等の保護者引渡し訓練

訓練会場		児童			職員			合計	うちバス 乗車	
		引渡し	バス避難	計	市本部	教職員	うちバス 乗車			計
第三中学校	7月10日	134	71	205	3	16	3	19	224	74
比角小学校	9月11日	394	43	437	3	40	7	43	480	50
南中学校	9月12日	58	22	80	3	19	6	22	102	28
北鯖石小学校	9月19日	67	27	94	3	16	9	19	113	36
荒浜小学校	10月10日	159	35	194	3	22	20	25	219	55
松浜中学校	10月10日	49	30	79	1	14	4	15	94	34
枇杷島小学校	11月7日	141	64	205	3	15	9	18	223	73
合計		1002	292	1294	19	142	58	161	1455	350

訓練会場		園児			職員			合計	うちバス 乗車	
		引渡し	バス避難	計	市本部	保育士	うちバス 乗車			計
柏崎保育園	10月16日	68	0	68	2	19	0	21	89	0
とうぶ保育園	10月17日	42	16	58	2	15	11	17	75	27
北条保育園	10月28日	23	5	28	2	14	8	16	44	13
合計		133	21	154	6	48	19	54	208	40

【総合訓練】10月23日(木)本部運営訓練

	本部員	連絡員・機能班	リエゾン	オブザーバ	防災・原子力課	合計
本部運営訓練	14	31	2	1	11	59
OFC運営訓練	1	2				3
合計	15	33	2	1	11	62

【柏崎市独自訓練】11月9日(日)屋内退避対応訓練

	住民	消防団	市職員	合計
北鯖石コミュニティセンター	100	21	6	127
合計	100	21	6	127

【総合訓練】11月9日(日)放射線防護対策施設の屋内退避訓練、施設敷地緊急事態要避難者の避難訓練

	入所者	職員	市職員	合計
特別養護老人ホームにしかりの里	5	17	2	24
合計	5	17	2	24

【総合訓練】11月9日(日)住民避難訓練

参加者	地区	南部地区		上条地区		中鯖石地区		南鯖石地区			市本部	合計	
	会場	南部コミセン		上条コミセン		中鯖石コミセン		南鯖石コミセン	大沢集落集会場				
住民	計	-	36	-	33	-	32	-	23	-	6	130	
市職員	広域避難先遣隊	村上市	4	上越市	4	-	-	-	-	-	-	8	
	緊急時地区派遣隊	-	3	-	3	-	3	-	3	-	-	12	
	バス避難支援隊	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	2	
	防災・原子力課員	-	2	-	2	-	2	-	1	-	1	8	
	本部職員	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	4
	計	-	9	-	9	-	6	-	4	-	2	4	34
合計		-	45	-	42	-	38	-	27	-	8	4	164

5 【個別訓練】夜間航空機避難訓練、原子力防災講座等

(1) 目的

原子力災害時における夜間の航空機避難の対応力向上

(2) 実施日時及び概要

令和7(2025)年8月30日(土)、31日(日)

項目	①【8月30日(土)】夜間航空機避難訓練		②【8月31日(日)】原子力防災講座		
会場	松波コミセン	鯖石川改修記念公園	新井総合コミュニティセンター(妙高市)		
時間	19:00~19:30	19:30~21:30	9:20~9:50	10:00~10:30	10:40~11:10
訓練内容	模擬マイナンバーカードを使用した受付、安定ヨウ素剤の緊急配布訓練	陸上自衛隊航空機(UH60JA)及びバスによる孤立地域から避難先(妙高市)への住民避難訓練	内閣府による、柏崎刈羽地域の緊急時対応に関する概要説明	避難所にて使用可能な雑用水ろ過装置の使用を体験	フィルタリング装置付きエアテントの展張を体験

(3) 参加機関

新潟県、柏崎市、妙高市、陸上自衛隊、海上自衛隊、バス事業者

(4) 訓練想定及び実施内容

- 地震に伴う市道の寸断等により孤立地域が発生。あわせて柏崎刈羽原子力発電所が全面緊急事態に至り、PAZ住民の一部について航空機(陸上自衛隊ヘリコプター)による空路避難を県災害対策本部で決定。夜間避難がより安全であると判断し、鯖石川改修記念公園から避難先の妙高市へ航空機避難を実施。
※天候の影響により、航空機は上越市上空まで飛行したのち、鯖石川改修記念公園に戻り着陸。妙高市へはバスによる避難に変更。
- 訓練翌日は避難先にて原子力防災講座等を実施。

(5) 参加者数

訓練項目	参加者数(延べ人数)			
夜間航空機避難訓練	住民	12人	市職員	12人
原子力防災講座等	住民	12人	市職員	5人

※参加住民は市内全域から公募した。

(6) 参加者の主な意見・感想

○夜間航空機避難訓練について

- ▶ 移動時の誘導が適切で良かったと思う。
- ▶ 子供、年配者、負傷者がいる場合、乗降はスムーズにいかないだろうと思った。
- ▶ 人数に限られるため、全員の避難には使えないと思う。
- ▶ 他の交通が利用できない場合の対応策として有効である。

○原子力防災講座等

- ▶ 緊急時対応について、避難先がどのように決められたのか聞きたかった。
- ▶ ウォーターチェンジャーについて、能登半島地震の被災地や長岡花火大会での実用例が紹介され、参考になった。
- ▶ フィルトリング装置付きエアテントについて、温度はどう対策するのか。
- ▶ フィルトリング装置付きエアテントについて、説明は分かりやすく、安心することができた。ただやはり、放射線を防ぐことは出来ないという点ではむずかしい。

(7) 訓練で見た課題と対策

・避難者数を増やすためのインフラ整備について

【課題】今回訓練における募集人数は15人であり、航空機の定員に依拠したものであった。実災害時においても、装備（航空機・船舶等）の大きさ・台数により避難できる人数が決まることから、多くの避難者に対応できるようヘリポート・港湾等の整備を進める必要がある。

【対策】より大型の装備に対応できるよう、必要な箇所へのヘリポート及び港湾の整備を国・新潟県に要望していく。

・訓練参加者数の拡大について

【課題】訓練参加者を全市から公募したが、幅広い年齢層から応募があり、原子力防災訓練に興味を持つ住民が一定数いることが確認できた。今後もより多くの住民が参加できるよう訓練内容を検討する必要がある。

【対策】訓練内容を工夫しながら、様々な年代の多くの住民が参加できる内容・方法を検討していく。

・厳しい条件下を含めた様々な想定での訓練について

【課題】夜間避難という厳しい条件を想定した訓練を実施した。今後も様々な状況を想定しながらより実践的な訓練を実施していく必要がある。

【対策】引き続き訓練を通じて複合災害における対応力や実動組織との連携の向上を図り、原子力災害時の避難の実効性向上に繋げていく。

・要配慮者の避難について

【課題】今回訓練においては、傷病者役を立て、職員が搬送及び搭乗を支援する訓練を行った。一方で、実災害時には職員だけで要支援者の対応することは困難であり、共助組織等による要支援者対応が必要となる。

【対策】引き続き、高齢者や妊産婦、乳幼児など多様な要配慮者を想定し避難訓練を行うとともに、訓練参加地区や参加住民と協力し、より実態に即した内容の訓練を実施していく。

(8) 訓練の様子



避難訓練 集合場所
模擬マイナンバーカード受付



避難訓練 集合場所
安定ヨウ素剤（代替品）緊急配布



避難訓練 鯖石川改修記念公園
ヘリからの降機



原子力防災講座
内閣府による説明



原子力防災講座
ウォーターチェンジャー



原子力防災講座
フィルタリング装置付きエアテント

6 【個別訓練】学校等における児童の保護者への引渡し訓練

(1) 目的

柏崎刈羽原子力発電所の緊急時における園児及び児童の避難が、学校等において策定している危機管理マニュアル等に基づき円滑に行われるよう小中学校及び保育園を対象に保護者への引渡し訓練を実施する。

(2) 実施日時及び参加人数

日程	訓練時間	訓練会場	児童等	教職員
7月10日(木)	14:10~15:50	第三中学校	205人	16人
9月11日(木)	13:30~15:30	比角小学校	437人	40人
9月12日(金)	14:10~15:40	南中学校	80人	19人
9月19日(金)	14:10~15:40	北鯖石小学校	94人	16人
10月10日(金)	13:50~15:10	荒浜小学校	194人	22人
		松浜中学校	79人	14人
10月16日(木)	15:20~16:55	柏崎保育園	68人	19人
10月17日(金)	15:10~16:55	とうぶ保育園	58人	15人
10月28日(火)	15:20~16:55	北条保育園	28人	14人
11月7日(金)	13:30~15:10	枇杷島小学校	205人	15人

(3) 訓練内容

原子力災害発生時の保護者への引渡し及び広域避難手順の確認

- ・ 柏崎市原子力災害対策本部と学校等の連絡手順、バス手配手順の確認
- ・ 学校等から保護者への連絡手順の確認（迎え要請、保護者への引渡し）
- ・ 引き渡せなかった児童等の教職員引率によるバス避難
- ・ 安定ヨウ素剤の持ち出し手順の確認

(4) 学校等からの主な意見等

○保育園

- ▶ 保護者に引渡すまでの時間が長いため、子どもたちを不安にさせないように対応を考える必要があると感じた。
- ▶ 確実な引渡しのため、同姓同名の場合にはクラス名と名前をはっきり伝える。
- ▶ 職員間の連携と、予期せぬ事態が発生した場合の臨機応変な対応が求められると感じた。
- ▶ 引渡しができず園で待機する園児が多かったり、職員の人員が不足したりすることを考えると、マニュアルに沿って対応できるか不安である。
- ▶ 原子力防災訓練に関心の低い保護者が多いと感じた。訓練の重要性を周知して実施できるとよい。

○小学校・中学校

- ▶ 保護者、学校、自治体で訓練をしたことでシミュレーションもできた。子どもたちも事前学習を経て訓練を行ったので、真剣に落ち着いて行動していた。
- ▶ 中学校区で訓練することは実際に即することができよかった。引渡し方法は保護者の混乱を招かないよう統一したほうがよいと感じた。
- ▶ 訓練に参加し、具体的な動きや担当の役割を確認できた。しかし、地震や津波などの災害とは異なる点に戸惑った。児童等、保護者に対し、望ましい対応について学んでいきたい。
- ▶ 季節や気候によって臨機応変に対応することが大切だと感じた。
- ▶ 教育委員会からの連絡は職員室で対応したが、児童や保護者の様子が把握しにくい。管理職の携帯電話、もしくは業務用の携帯電話やI P 電話などで連絡できるネットワークが構築されるとよい。
- ▶ 実際には市職員と様々な場面で連携していくこととなるが、どのようになるのかまだ分からず、不安がある。

(5) 訓練で見た課題と対策

・継続した訓練の実施について

【課題】令和2(2020)年度から引渡し訓練を開始し、保育園、小学校及び中学校において、順次訓練を実施しているところである。しかしながら、UPZ内は訓練未実施の学校等が残っているため、訓練を実施する学校等数を増やししながら、実施していく必要がある。

【対策】訓練計画を作成し、学校等と調整を行い、計画的に訓練を実施していく。

・事前の原子力防災講座の実施について

【課題】児童等や保護者の原子力防災に関する理解促進を図るために、原子力災害時の避難を体験するだけでなく、事前に避難方法等の説明し、訓練効果を高めていく必要がある。

【対策】引渡し訓練の実施前に児童等を対象に原子力防災講座を実施する。

(6) 訓練の様子



学校での保護者への引渡し



引渡しできなかった児童等のバス避難訓練の様子

7 【総合訓練】本部運営訓練及び住民避難訓練等

(1) 目的

- ・柏崎市地域防災計画（原子力災害対策編）に基づき、国、新潟県、市町村及び防災関係機関の相互の連携による防災対策の確立及び防災業務関係者の防災技術の習熟を図る。
- ・住民の参加により、柏崎市原子力災害広域避難計画の検証及び原子力災害発生時の避難対応力の向上を図るとともに、原子力防災に対する理解の向上を図る。

(2) 参加機関

新潟県、柏崎市、県内市町村、内閣府、原子力規制庁、自衛隊、海上保安庁、柏崎市消防団、（公社）新潟県トラック協会柏崎支部、東京電力ホールディングス（株） ほか

(3) 参加者数

【総合訓練】10月23日(木)本部運営訓練

	本部員	連絡員・機能班	リエゾン	オブザーバ	防災・原子力課	合計
本部運営訓練	14	31	2	1	11	59
OFC運営訓練	1	2				3
合計	15	33	2	1	11	62

【柏崎市独自訓練】11月9日(日)屋内退避対応訓練

	住民	消防団	市職員	合計
北鯖石コミュニティセンター	100	21	6	127
合計	100	21	6	127

【総合訓練】11月9日(日)放射線防護対策施設の屋内退避訓練、施設敷地緊急事態要避難者の避難訓練

	入所者	職員	市職員	合計
特別養護老人ホームにしかりの里	5	17	2	24
合計	5	17	2	24

【総合訓練】11月9日(日)住民避難訓練

参加者	地区	南部地区		上条地区		中鯖石地区		南鯖石地区			市本部	合計
	会場	南部コミセン		上条コミセン		中鯖石コミセン		南鯖石コミセン	大沢集落集会場			
住民	計	-	36	-	33	-	32	-	23	-	6	130
市職員	広域避難先連絡	村上市	4	上越市	4	-	-	-	-	-	-	8
	緊急時地区派遣隊	-	3	-	3	-	3	-	3	-	-	12
	バス避難支援隊	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	2
	防災・原子力課員	-	2	-	2	-	2	-	1	-	1	8
	本部職員	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	4
	計	-	9	-	9	-	6	-	4	-	2	34
合計		-	45	-	42	-	38	-	27	-	8	164

(4) 訓練想定

柏崎市、刈羽村等で震度6強の地震が発生し、唯一運転中の柏崎刈羽原子力発電所6号機において、原子炉が自動停止。炉心冷却機能の一部が喪失し施設敷地緊急事態となり、炉心冷却機能が喪失し全面緊急事態となる。

その後、炉心が損傷し、放射性物質が放出され、一部地域で空間放射線量が一時移転の必要とされる基準に上昇する状況となる。

さらに、液状化等による道路寸断により通行不能箇所が発生する状況となる。

(5) 訓練項目及び日程

○10月23日(木) 10:00~16:30

- ア 柏崎市災害対策本部運営訓練(市役所3階 災害対策本部会議室)
- イ オフサイトセンター運営訓練(柏崎刈羽原子力防災センター)
- ウ 緊急時通信連絡訓練(市役所3階 防災・原子力課執務室)

○11月9日(日) 8:30~15:00

- エ 放射線防護対策施設の屋内退避訓練
- オ 施設敷地緊急事態要避難者の広域避難訓練
- カ P A Z内住民のバス避難訓練(南部地区)
- キ U P Z内住民の屋内退避訓練(U P Z全住民)
- ク U P Z内住民の屋内退避対応訓練(北鯖石地区)
- ケ U P Z内住民のバスによる一時移転訓練(上条、中鯖石、南鯖石地区)
- コ 安定ヨウ素剤緊急配布訓練(バス避難集合場所)
- サ 広報活動訓練(市役所3階 防災情報通信室、防災・原子力課執務室)

(6) 訓練スケジュール

○本部運営訓練等 10月23日(木) 10:00~16:30

【緊急事態区分(EAL:Emergency Action Level):警戒事態(AL)、施設敷地緊急事態(SE)】

想定日時	10/22				10/23					
	14:00	16:00	18:00	20:00	8:00	10:00	12:00	14:00	16:00	18:00
緊急事態区分(EAL)	AL				SE					
自然災害の想定	○地震発生(震度6強)				○地震発生(震度6強)					
柏崎市災害対策本部運営訓練		●市原子力災害警戒本部会議 (実時間10/23 10:00~)							●市原子力災害対策本部会議 ●県原子力災害対策本部会議【テレビ会議参加】 ●現地事故対策連絡会議【テレビ会議参加】	
オフサイトセンター運営訓練									●市原子力災害対策本部会議【Web会議参加】 ●県原子力災害対策本部会議【テレビ会議参加】 ●現地事故対策連絡会議	
緊急時通信訓練					9:10~10:30	緊急時通信訓練				

○住民避難訓練等 11月9日(日) 8:30~15:00

	8:00	8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00
放射線防護対策施設の屋内退避訓練 施設敷地緊急事態要避難者の広域避難訓練 【特別養護老人ホームにしがかりの里】				9:20~	放射線防護施設の屋内退避訓練										
				9:30~	施設敷地緊急事態要避難者の広域避難訓練										
PAZ内住民のバスによる広域避難訓練 【南部地区】		★8:30 避難指示(防災行政無線)	8:30~	集合・受付(バス避難集合場所)・安定ヨウ素剤緊急配布											
			9:20~	バス避難開始			11:00~	避難経由所到着・受付							
								11:40~	避難所到着・受付				●14:00頃	帰宅	
UPZ内住民の一時移転訓練 【上条・中鯖石・南鯖石地区】		★8:45 一時移転指示(防災行政無線)	8:45~	集合・受付(バス避難集合場所)・安定ヨウ素剤緊急配布											
			9:30~	バス避難開始			11:10~	避難退域時検査体験講座							
								11:30~	避難経由所到着・受付						
								12:10~	避難所到着・受付				●14:00頃	帰宅	
UPZ内住民の屋内退避訓練【UPZ全地区】		8:30~9:00	屋内退避訓練												
屋内退避対応訓練【北鯖石地区】		8:30~9:50	屋内退避訓練		10:00~	物資受取訓練									
					10:10~	救急搬送訓練									
						10:35~	原子力防災講座								
広報活動訓練															

- 防災行政無線放送(市内一斉：避難指示、屋内退避開始)
- 緊急速報メール・エリアメール送信
- ホームページ公開、LINE、SNS、Yahoo防災アプリ
- 防災行政無線放送(上条・中鯖石・南鯖石地区限定：一時移転指示)
- 防災行政無線放送(北鯖石地区限定：物資配布案内)

(7) 訓練内容

ア 柏崎市災害対策本部訓練

新潟県災害対策本部等運営訓練で行われるＴＶ会議や緊急時通信連絡訓練と併せ、柏崎市原子力災害対策本部の独自運営訓練を実施した。

市原子力災害対策本部会議では、地震と原子力災害の複合災害を想定し、一部被害状況報告をブラインドとして実施した。

イ オフサイトセンター運営訓練

現地災害対策本部長となる副市長及び連絡員をオフサイトセンターに派遣し、市現地災害対策本部を設置したうえ、WEB会議により市原子力災害対策本部との通信訓練を行った。

また、オフサイトセンターで行われた現地事故対策連絡会議に出席した。

ウ 緊急時通信連絡訓練

新潟県との緊急時の通報連絡方法を使った通信連絡訓練を実施した。

エ 放射線防護対策施設の屋内退避訓練

放射線防護対策済みの特別養護老人ホームにしかりの里において、施設職員が即時避難困難者等を放射線防護対策実施済エリアに移動させ、屋内退避を行う訓練を実施した。

オ 施設敷地緊急事態要避難者の広域避難訓練

特別養護老人ホームにしかりの里において、車椅子の施設敷地緊急事態要避難者（代役）の福祉車両への乗降と、広域避難先である村上市の社会福祉施設への搬送訓練を初めて実施した。

カ P A Z内の住民避難訓練

南部地区において原子力災害を想定した村上市へのバス避難訓練を実施した。

住民はバス避難集合場所に集合し、市職員による受付及び安定ヨウ素剤の配布を受けた後、バスにより避難経由所及び避難所への広域避難を行った。避難経由所及び避難所の開設は受入先自治体である村上市が行い、避難経由所では柏崎市職員が、避難所では村上市職員が、それぞれ住民の受付を実施した。

訓練にあたっては、バス避難集合場所において消防団が避難者の誘導を行った。また、各会場の受付は、県が開発中の避難者支援システムで行った。

○訓練実施場所

バス避難集合場所	南部コミュニティセンター
避難経由所	村上市民ふれあいセンター ※会場都合により、本来の避難経由所ではない会場で訓練を実施
避難所	荒川地区公民館

キ U P Z内住民の屋内退避訓練

防災行政無線等の指示により、各家庭で屋内退避訓練を実施した。

ク U P Z内住民の屋内退避対応訓練（北鯖石地区）

北鯖石地区において、屋内退避中の物資輸送及び住民による物資受取、並びに消防署職員による救急搬送を想定した訓練を実施した。

訓練にあたっては、消防団が住民の誘導及び物資の受け渡しを行った。

また、訓練後に原子力規制庁による原子力防災講座を実施した。

ケ U P Z内住民の一時移転訓練

上条地区、中鯖石地区及び南鯖石地区において、放射性物質放出後の一時移転指示を想定した上越市へのバス避難訓練を実施した。

住民はバス避難集合場所に集合し、市職員による受付及び安定ヨウ素剤の配布を受けた後、バスにより避難経由所及び避難所への広域避難を行った。なお、中鯖石・南鯖石地区については、主な避難ルートが通行止めとなっていたため、迂回して避難した。

避難経由所及び避難所の開設は受入先自治体である上越市が行い、避難経由所では柏崎市職員が、避難所では上越市職員及び新潟県職員が、それぞれ住民の受付を実施した。

訓練にあたっては、バス避難集合場所において消防団が避難者の誘導を行った。また、各会場の受付は、県が開発中の避難者支援システムで行った。

このほか、ユートピアくびき希望館を会場に避難退域時検査の体験講座を実施した。

○訓練実施場所

▶ 上条地区

バス避難集合場所	上条コミュニティセンター
避難経由所	ユートピアくびき希望館
避難所	上越市ファームセンター

▶ 中鯖石地区

バス避難集合場所	中鯖石コミュニティセンター
避難経由所	ユートピアくびき希望館
避難所	牧体育館

▶ 南鯖石地区

バス避難集合場所	南鯖石コミュニティセンター
避難経由所	ユートピアくびき希望館
避難所	牧体育館

コ 安定ヨウ素剤の緊急配布訓練（住民避難訓練・一時移転訓練と同時に実施）

バス避難集合場所での受付時に安定ヨウ素剤受取希望の有無、服用可否等を確認し、安定ヨウ素剤（代替品：あめ玉）を配布した。

サ 広報活動訓練

○防災行政無線

以下内容の訓練放送を実施した。

- ・ P A Z 内住民への避難指示、及びU P Z 内住民への屋内退避指示
- ・ U P Z 内住民への一時移転指示
- ・ U P Z 内住民への物資受取案内

○緊急速報メール・エリアメール

P A Z 内住民への避難指示、及びU P Z 内住民への屋内退避指示に係る訓練メールを配信した。

○その他

- ▶ 市公式ホームページ及び市公式SNSに訓練情報を掲載した。
- ▶ 初めて民間防災アプリにて、「やさしい日本語」を活用した配信を実施した。

(8) 訓練参加者等の主な感想・意見

○災害対策本部運営訓練、オフサイトセンター運営訓練、緊急時通信連絡訓練

(参加職員)

- ▶ 今回は地震発生からS E～G E（手前）に至る想定時間を2日以内としたが現実的ではない。緊急時、K Kにおいては一定程度閉じ込める時間があるはずである。複合災害時にはこの時間をフルに活用して人命を優先した一般災害対応をしなければならない。職員や参加者に対して複合災害時にK Kから2日程度で放出されるようなイメージを与えかねない。
- ▶ 本部署員以外の職員参加があったことは良かったと思う。今後は、その職員が本部の状況を「状況を正確に、どの様に関係職員・機関へ報告し、どう行動をとるか」に主体的に結びつけられるが重要となると感じた。また、P A Z、U P Z区域の住民が避難や退避行動ができるよう、忘れる、知らなかったことも考えられるため、繰り返し伝えていく必要があると思った。
- ▶ 他の自治体は、首長の訓練参加が確認できず、訓練に対する温度差を感じた。

○U P Z屋内退避対応訓練

(参加職員)

- ▶ 北鯖石コミセンにおいて、屋内退避者に係る物資受取訓練では、一人1食配給していたが、実際には屋内退避をしている家族分を代表者が受け取りに来ることが想定される。これに柔軟に対応する必要があるが、トラブルになり得る可能性もあることから、マイナンバーカード受付などで世帯確認ができる仕組みも必要ではないか。
- ▶ Live119の紹介は有意義であり、実際に見ていただくことの重要性を再認識した。

(参加住民の主な意見)

- ▶ 移動開始の具体的なタイミングを指示する事で、人の移動にどの程度時間がかかるか把握できると思う。集合時間を指示することも短時間で済ませるには良いが、時間がかかるが広報の聞こえた時点での移動開始で実施してはいかがか？
- ▶ 今回は訓練ということで、静かな状態で行えたが、実際は騒がしい状況の中、指示や説明がどう伝わるのか、疑問が残る。
- ▶ 実際に受取訓練や救急搬送訓練を見ることで、資料を見るだけではイメージしにくいところもイメージしやすかったです。1度訓練しただけでは、忘れてしまうこともあるので定期的な訓練が必要だと思いました。
- ▶ 今日の訓練では高齢の方の参加が多いように感じた。もっと若い世代も積極的に参加し、いざという時に動けるようにしていった方がいいと思った。

○PAZ・UPZ住民避難訓練等

(参加職員)

- ▶ 放射性物質付着確認から簡易除染と、訓練に参加しないと実際に見る機会のない参加者には非常に貴重な体験になったと思う。説明も丁寧で分かりやすかったが、屋外でもあることからマイクの必要性を感じた。
- ▶ 避難退域時検査体験講座において、検査対応職員は防護服等を身につけていなかった。リアリティを持たせるためには正式な格好で臨むべき。
- ▶ 長時間のバス移動のため、定期的な休憩（高齢者の負担軽減）や携帯用トイレ（備え）などの配布も検討が必要。
- ▶ 前日の訓練周知広報で、PAZとUPZの範囲の説明をしっかりと行った方がいい。あわせて、防災ガイドブックに目を通しておくよう案内した方がいい。
- ▶ マイナンバー所持者は避難の際の携帯を徹底した方がいい。
- ▶ 避難者支援アプリが電波状況により使用できないのは課題だと思った。

(参加住民の主な意見)

- ▶ 冬場の大雪時等、状況が厳しい時の車での移動が難しいと思うので、一度積雪時も訓練した方がいい。
- ▶ 訓練には2回目の参加。体験して、記憶に残るし、行動力に繋がる。
- ▶ 実際に地震が起きた時に、道路や雪の状況は大丈夫なのか、バスは走れるのか。
- ▶ 自分は自家用車での避難になると思うが、年齢的に村上市まで運転していくのは難しい。
- ▶ 避難経路など、名前は知っていたが、具体的なところは知らなかったのが良かったです。避難の流れがよくわかりました。
- ▶ 避難経路の道が山道過ぎて現実的ではない。自分で運転して避難所まで行くのは無理。冬は特に厳しいと思う。
- ▶ 避難先を上越方面でなく南魚沼方面としてほしい。訓練の事前説明会での意見がいかされていなかった。国、県の指示にしたがって行動するとの説明があったが、実際に行動するのは市民であり、市民の声を先頭とした計画としてほしい。
- ▶ 受付システムについて、通信状況が悪い時にどうするか気になった。
- ▶ 勤務先で事故が起きた場合、家族は集団で避難することになり、避難先で合流できるか不安である。渋滞で避難先に辿り着けないことや被ばくを考えると下手に動かず、自宅で過ごすのもありかと感じた。

(9) 訓練で見た課題と対策

○災害対策本部運営訓練、オフサイトセンター運営訓練、緊急時通信連絡訓練

・より実践的な訓練の実施について

【課題】 今回の訓練は、県の被害想定に沿ったシナリオ型訓練としたが、事前に被害想定に基づく対応を各部局において検討したことで、より実践的な訓練となった。引き続き訓練の手法を検討しながら、より実践的で緊張感のある訓練としていく必要がある。

【対策】 実災害時の災害対策本部会議に近い形となるよう、一部においては訓練時間の中で被害想定を基に各部が対応を検討する手法を盛り込むことを含め、訓練シナリオを検討する。

・継続した要員研修の実施について

【課題】 オフサイトセンターに派遣する職員に対して、原子力災害に関する基礎的な知識や実際の活動に関する継続的な訓練及び研修が必要である。

【対策】 新潟県を通じて、オフサイトセンターの運営に関わる継続的な訓練及び研修の実施を求めていく。

○屋内退避対応訓練

・継続的な訓練の実施及び屋内退避にかかる周知について

【課題】 参加者のうち、UPZの防護措置である屋内退避について知らなかったと答えた方は約4割であったが、屋内退避中の物資受取りや救急搬送など実践的な訓練を行ったことで、屋内退避の目的や運用について理解できたと答えた方は約9割であったことから、正しい知識を持って備えてもらうために、継続的な訓練の実施や実際に即した訓練を実施していく必要がある。

【対策】 屋内退避の目的や運用について説明するとともに、実践的な訓練により屋内退避中に可能な行動について理解促進を図っていく。また、多角的な視点での課題抽出も期待できることから、幅広い世代から参加してもらうべく、参加手法を検討していく。

・要員の対応力向上について

【課題】 要員の原子力防災に関する基礎的な知識の習得や活動内容の理解が必要であり、かつ、状況に応じた柔軟な対応が求められる。

【対策】 迅速で冷静な対応力の向上と対応体制の強化のため、継続的な研修及び訓練を実施していくとともに、訓練の手法を検討していく。

○ P A Z ・ U P Z の住民避難（一時移転）訓練

・ 受付における I C T の活用について

【課題】今年度、個別訓練及び総合訓練では新潟県が開発した避難者支援システムによる受付を実施し、結果として避難者一人当たりの受付時間の短縮や受付業務の効率化が図られるものであった。しかし、通信環境により暫時システムによる受付ができなかったこと、また、参加者からはマイナンバーカードを所有していない方への対応やアプリ（又はスマートフォン）の操作を不安に思う意見があったことから、受付方法については引き続き、検証を進めていく必要がある。

【対策】令和3(2021)年度から顔認証システム等の様々な I C T を活用した受付を試行実施してきた。これまでの検証結果を踏まえ、基本的には新潟県の避難者支援システムを活用していくが、具体的な対応方法については関係自治体を含め検討を重ねる。また、マイナンバーカードやアプリを所有していない方を想定した、紙での受付方法も訓練し、受付及び避難者支援の I C T 化を図っていく。

・ 避難行動要支援者の避難訓練について

【課題】訓練参加者から、高齢者等の要配慮者の避難を不安に思う意見が多くある。

【対策】今回の訓練では、消防団及び自主防災組織による避難支援訓練を行った。引き続き、消防団及び自主防災組織と連携した要配慮者の避難訓練を実施し、要配慮者の避難の支援体制を強化していく。

・ より実際に即した避難訓練の実施について

【課題】今回はバスでの避難等を行う訓練であったが、参加者から自家用車での避難について、遠方であることや冬季間のことを含め不安に思う意見が寄せられた。また、今回バスに職員が乗り誘導等を行ったが、実際の避難時にはバスにも職員が乗らない想定である。これらを踏まえ、より実際に即した訓練の実施を望む声がある。

【対策】参加者の安全を第一としつつ、自家用車による避難や、バスに職員が乗らない形での避難訓練も含め、次回以降の訓練を検討する。

・ 避難経路所の周知について

【課題】自分が向かう避難経路所について、訓練前から知っていた参加者は半数を切っていた。もっと広く周知すべきとの意見や自家用車で避難した場合にたどりつけるか不安との意見もあった。

【対策】原子力防災講座等を通じて、原子力災害時の避難方法や避難先について広く周知を図るとともに、訓練参加者に対しては、避難経路所の場所や避難経路所を設置している目的をしっかりと説明し、理解の促進に努めていく。

(10) 訓練の様子



災害対策本部運営訓練
関係機関とのテレビ会議



災害対策本部運営訓練
市長指示



施設敷地緊急事態要避難者の
広域避難訓練



屋内退避対応訓練
物資輸送訓練



屋内退避対応訓練
物資受取訓練



屋内退避対応訓練
救急搬送訓練



UPZ 内住民避難訓練
要支援者搬送訓練



PAZ 内住民避難訓練
避難者支援システムによる受付



PAZ 内住民避難訓練
安定ヨウ素剤緊急配布訓練



UPZ 内住民避難訓練
避難退域時検査体験講座



UPZ 内住民一時移転訓練
避難経由所での受付



UPZ 内住民一時移転訓練
避難所での受付